前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏(法人	氏 (法人にあっては名称) 住 (法人にあっては主たる事業所の所在地)					地)					
a JFE	名 J F E 鋼板株式会社 〒 141-0032 東京都品川区大崎1丁目11番2号 所 ゲートシティ大崎イーストタワー9階										
	本票作成 部署名:倉敷製造所 技術部 設備課										
主たる業	種	対 ード	22 業種名:	鉄鋼業	É						
	番号	工場等の名称					所 在 地				
	1	倉敷製造所					倉敷市玉島乙島8252-11				
県内の	2	岡山営業所				岡山市北区中	中山下1丁	目8番4	号		
主な											
工場等											
特定事業	. ш	1)%	然料等原油換算1,	500kℓĽ	以上 □ ②バス・	・ トラック1	100台、タクシー2	50台以上	3C0)₂換算3,(000t以上
の該当要	件 ($lue{\Box}$	場等の数		2 所	● E	車両台数(②)該当の場	合)		台)
温室効果カ	ス基	準年	度(平成 30	年度)	(令和	2)年度排出量	目標年	度(令	和 3	年度)
排出量					t CO ₂						
	番	番号 工場等の名称					(令和 2)年度排出量				
	(① 倉敷製造所					26, 457 t CO ₂				
).) III		② 岡山営業所				0 t CO ₂					
主な工場の排出量										1	t CO ₂
*>DEM =										1	t CO ₂
										1	t CO ₂
										1	t CO ₂
	計	画出	引間: 令	和 5	 亡 年度	\sim	 令和 :	3 年度	(3 億	6年度)
削減目標	(D)	_	総排出量基準		2) 年度削			削減率	(目標達用	
達成状況	兄 —		原単位基準		26. 2	%		0 %	☑ 達原		~] 未達
)H /	7,1									
(原単位基の割割を	準	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容					原単位当たり排出量 基準年度 (2)年度 目標年度				
の削減目標 選択してい										1 . 1/1	, , , ,
場合に記入							CO ₂ /()	CO ₂ /()	CO ₂ /()
(該当事業	美者のみ	記入	、)			8					
ベンチマー			象事業の名称		ベンチマーク	/ 指標	関 連 数	女値(令和	2	年度)	幸成率等

ベンチマーク	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(令和	2	年度)	達成率等
指標の状況						

【削減状況の自己評価】

- ・省エネ法に基づき、エネルギー使用状況を月次で把握しながら、省エネ対策に取り組んだ。
- ・2020年度は、新型コロナ感染症の影響もあり、生産量が大きく落ち込んだため、CGL稼働率が大幅に低下(2018年度:87%、2019年度:76%、2020年度:65%)。結果として、温室効果ガスの総排出量が想定よりも大幅に減少した。しかし、エネルギー原単位は悪化してしまった(2018年度:56.35、2019年度:57.49、2020年度:61.10)。
- *CGL稼働率低下すると、ライン停止時の金属溶解炉保温時間が長くなるため、原単位を悪化させる

【推進体制】

IS014001環境マネジメントシステムに則り、製造所長を環境管理責任者、環境安全室長を環境管理推進者とし、省エネルギー項目をマネジメントプログラムに取り入れ、目標削減達成のための活動を推 進した。

【目標削減率達成のために実施	値した措置及び今後の取組】				
工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容				
倉敷製造所	(2020年度実施分) ・各燃焼バーナ調整、伝熱チューブ更新による高効率化:100tC02/年 削減 ・天井照明設備LED化:3tC02/年 削減 ・GLポット非常用発電機設置によるライン安全停止削減:50tC02/年 削減 ・CGL稼働GL生産月1チャンス化:200tC02/年 削減 ・エアコンプ゚レッサー更新:209tC02/年 削減				
	(今後実施予定分) ・ CGL稼働GL生産月15ャンス化: 200tC02/年 削減 ・ ワイピングプロア更新: 212tCo2/年 削減 ・ 各燃焼バーナ調整、伝熱チュープ更新による高効率化: 100tC02/年 削減 ・ 然焼炉耐火物補修: 50tC02年 削減 ・ 空調機器更新、照明LED化推進: 30tC02/年 削減 ・ 空調機器更新、照明LED化推進: 30tC02/年 削減 ・ ペーパーレスの推進(会議の集約、電子決裁化、資料の省略) ・ CCLメインドライブ交流化: 200tC02/年 削減 ・ 各冷却塔ファンインバータ化: 200tC02/年 削減				
	・CCL高圧受電盤更新:200tC02/年 削減・ノンフロン式温調機器への置き換えによる温室効果ガス漏洩リスク低減・AIを活用したGLポット寿命監視による改修時期見極め:25tC02/年 削減				

【森林保全等吸収源対策への取組】							
県内で の取組	無						
その他	無						
【再生可	能エネ	ペルギーの導入】					
県内で の取組	無						
その他	無						
【その仲特記東頂】							